

横浜市立脳血管医療センター

名称変更反対が6割

市民アンケート

横浜市が検討している横浜市立脳血管医療センター(磯子区)の病院名称変更を巡り、市が実施した市民アンケートの6割が「脳血管」の名称を残すよう回答したことが分かった。センターは、脊椎脊髄外科を新設するなど医療機能の拡大を計画中で、名称変更もその一環。アンケートを受け、脳血管疾患の患者や家族らで作る「脳卒中か

脳血管疾患と専門として脳卒中の急性期から回復期までの治療とリハビリを行ってきた。しかし、患者数が限られ経営が悪化。市は病床利用率を上げようと、2012年4月から脊椎脊髄外科などを新設、併せて病院名の変更を検討している。アンケートは今年5月、市民約2153人を対象に実施し、4割近くが回答した。その結果、病院名に入れる専門部位のうち「脳血管」が61・9%と最も多く、「脊椎」(15%)、

「脊椎」(9・5%)を大きく上回った。地名も「横浜」が44・8%と高かった。同会の上野正代表は「アンケート結果から現行名のままでもいい」とは明らか。脳卒中医療が重要になる中、名称変更は病院の責任放棄につながる」と批判した。

【飯田憲】

市立脳血管医療センター

「名称変えないで」患者団体

横浜市立脳血管医療センター(磯子区)の名称変更問題で、患者団体「脳卒中から助かる会」が二十日記者会見し、「市のアンケート

でも「脳血管」を選んだ人が一位」として、現在の名称を変えないよう訴えた。アンケートは、登録した市民八百十五人が五月に答えた「ヨコハマアンケート」。同センターが専門とする部位を病院名に入れるべきだと答えた人に入ると分かりやすい部位を複数選んでもらった結果、「脳血管」(61・9%)が最も多かった。その他は「脳」(56・9%)、「神経」(35・6%)、「脊椎」(15%)、「脊椎」(9・5%)の順。市は二〇一二年度に導入した「脊椎脊髄外科」の拡大に合わせ、病院名を変える方針。「考える会」は「脳卒中医療の充実に集中し、本来の目的を示す病院名の堅持を」と求めている。(橋本誠)